

Book Review

高齢者のドライマウス 口腔乾燥症・口腔ケアの基礎知識

阪井丘芳 著



Reviewer

小野高裕 Takahiro Ono

(新潟大学大学院医歯学総合研究科 教授)

B5判, 60頁
定価(本体1,900円+税)
医歯薬出版刊



本書の良いところは、何よりも薄くて軽くて、解説は文字数少なく、ページの半分がイラストなので、とっても理解しやすいところです、とアッサリ言ってしまうと、著者の阪井先生は真面目な方なので、「たしかにそうですけど…(それだけですか?)」とちょっと困ったような笑い方をされるかもしれない。手にとって見て、まずそれが第一印象だったので、先生ごめんなさい！ 私も大学院を出てから大学で30年くらい飯を食わせてもらっているので、先生のような世界的な唾液腺研究のトップランナーが、よくぞこのような読みやすい解説書を書いてくださったと敬服するとともに、専門的知識をこんなにわかりやすく書くにはどうしたらいいのかしら…と考え込んでしまった。

本書の前書き(「はじめに」)には、「できるだけ多くの医療従事者・介護関係者の方々の臨床に生かしていただけるようにまとめました」と述べられている。まさにその通りで、歯科・内科のあらゆる医療職だけでなく、福

祉・介護施設や家庭でも役立つ、きわめて守備範囲の広い本だといえる。

書評を書かせていただくためにもう一度読み直し、あらためて本書の「巧さ」に気がついた。目次を最初から追っていくと、「基礎知識の再確認」→「症状」→「原因」→「加齢による口腔内の変化」→「対応法」→「遭遇したら? (評価法)」→「症別対応法」というように、一般の教科書とは違う、導入から理解の道筋を考えた構成となっている。ちょうど上手な臨床講義のように、実習生の手を取って患者さんの前に連れて行ってくれるような感じである。

私自身も高齢患者さんの補綴治療をしながら、ドライマウス(=口腔乾燥)が補綴治療の予後に深刻な影響を及ぼすことを痛感しながら、十分な指導やケアを行ってこなかったことが反省される。放射線治療や唾液腺に手術侵襲のあった口腔がんの患者さんでは、破壊的なスピードで齶蝕が進んだり、口腔機能が極度に低下したりするので、流石に手をこまねいてはいられない

が、一般の補綴治療症例に対しても、本書に書かれている唾液分泌機能の基本的な評価を行い、必要なケアをもっと実践しなければいけないと思った次第である。

ところで、今やドライマウスは「口腔機能低下症」を構成する7つの症候(口腔不潔、咬合力低下、咀嚼機能低下、口腔乾燥、舌・口唇運動機能低下、嚥下機能低下、低舌圧)の一つに含まれている。これらの症候のなかで、「口腔不潔」と「口腔乾燥」は、他の口腔機能関連項目の基盤となる口腔環境の重要因子であり、「口腔機能低下症」の前段階である「オーラルフレイル」、あるいはさらにそれ以前の段階から始まっているといえる。いかにそこに「気づき」を与え、早期の改善あるいは緩和するか、ということが、高齢者の口腔健康のキーポイントとなることは間違いない。そのことを考えれば、「この誰でも手に取って勉強できる薄くて軽い本」の存在意義は、とても大きいと私は思う。